

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

平成30年4月17日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立日根野中学校 第3学年、全生徒

実施生徒数（ 176人 ）

4. 調査の内容

(1) 学力に関する調査

ア 教科は、国語及び数学及び理科。

イ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、主として知識・技能に関する内容（A問題）と、それらを活用する力などに関する内容（B問題）とする。

ウ 出題形式については、選択式及び短答式に加え、記述式の問題とする。

(2) 学習状況に関する調査

調査する学年の生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査（以下「生徒アンケート調査」という。）を実施する。

(3) 学校の取組みに関する調査

調査対象の生徒が在籍する学校を対象に、学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査（以下「学校アンケート調査」という。）を実施する。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（数学）

1. 全体の傾向

「A区分問題」

・平均正答率は全国と比べて1.7ポイント程度上回っている。数と式の分野においては、全国より6.7ポイント程度上回っているが、図形の分野では1.7ポイント、資料の活用においては全国より2.4ポイント程度下回っており、苦手な傾向にある。

平均正答率（本校 68／泉佐野市 62／大阪府 65／全国 66.1）

「B区分問題」

・平均正答率は全国と比べて0.9ポイント程度下回っている。関数の分野においては、全国より1.7ポイント程度上回っているが、他の分野では0.7～2.5ポイント程度下回っており、活用的な問題において、苦手な傾向にある。

平均正答率（本校 46／泉佐野市 40／大阪府 46／全国 46.9）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

数学A	特徴がみられた設問
【数と式】 絶対値の意味を理解している。 1 (2) 絶対値が6である数を書く。(78.9/69.0) 【数と式】 指数を含む正の数と負の数の計算ができる。 1 (3) $2 \times (-5^2)$ を計算する。(78.9/68.9) 【数と式】 基準に対して、反対の方向や性質をもつ数量の表し方を理解している。 1 (4) ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ。(60.6/54.2) 【数と式】 数量の大小関係を不等式に表すことができる。 2 (1) 「1個 a kg の荷物3個と1個 b kg の荷物4個の全体の重さは15 kg 以上である」という数量の関係を表した不等式を書く。(49.1/41.5) 【数と式】 文字式に数を代入して式の値を求めることができる。 2 (3) $a=3$, $b=-4$ のときの式 $a-2b$ の値を求める。(85.7/78.5)	【数と式】 数量を見だし、その数量に着目し連立二元一次方程式を作ることができる。 3 (4) 連立二元一次方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す。(80.6/75.2) 【図形】 回転移動した図形かくことができる。 4 (3) 長方形 ABCD を、点 A を中心として時計回りに 90° だけ回転移動した図形を書く。(57.7/66.1) 【図形】 空間における平面と直線との位置関係を理解している。 5 (1) 直方体において、与えられた面に平行な辺を書く。(79.4/74.3) 【図形】 証明の必要性和意味を理解している。 8 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ。(36.6/45.5)

【数と式】 関係を表す式を、等式の性質を用いて目的に応じて変形することができる。 2 (4) 等式 $S=\frac{1}{2}ah$ を、aについて解く。 (54.9/48.2) 【数と式】 方程式を解く際における等式の性質の使い方について理解している。 3 (1) 一元一次方程式 $6x-3=9$ を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ (75.4/64.0) 【数と式】 連立二元一次方程式を解くことができる。 3 (3) 連立二元一次方程式 $\begin{cases} 5x-2y=10 \\ 3x-2y=2 \end{cases}$ を解く。 (88.0/80.0)	【関数】 比例のグラフから、xの変域に対応する y の変域を求めることができる。 9 (2) 比例のグラフから、xの変域に対応する y の変域を求める。 (62.9/55.0) 【資料の活用】 多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解する。 15 (1) 1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ。 (30.9/40.2)
---	--

数学B	特 徴 が み ら れ た 設 問
【資料の活用】 与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉える。 1 (2) 放送計画で、1日目がA、2日目がBになる確率を求める。 (33.1/43.9)	【図形】 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、的確に処理することができる。 4 (3) 平行四辺形 ABCD を正方形 ABCD に変えたときの四角形 EBF D がどのような四角形になるかを説明する。 (36.6/43.9)

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
数学の勉強は好きですか。	54.0	53.9		0.1
数学の勉強は大切だと思いますか。	82.9	83.6		0.7
数学ができるようになりたいと思いますか。	87.5	92.5	◇	5.0
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	69.9	72.9		3.0
数学の授業で学習したことは普段の生活の中で活用できないか考えますか。	32.9	38.7	◇	5.8

○数学の勉強が嫌いな生徒が多いが、昨年度に比べると減ってきている。

昨年度は全国平均を大きく下回っていたが、今年度は上回っている。

○数学を身近なものであるということを考えられない傾向がある。

○いろいろな例を挙げることや、授業の展開で、興味を持たせることが必要である。

○じっくり考える力をつけるために、授業中の雰囲気や学び合いの場の設定が大切になると考える。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（理科）

1. 全体の傾向

- 平均正答率は全国と比べて1ポイント程度上回っている。物理的領域は2.7ポイント、化学的領域は0.5ポイント、生物的領域は1.5ポイント全国と比べて上回っているのに対し、地学的領域のみ0.4ポイント下回っている。

平均正答率（本校 67／泉佐野市 61／大阪府 64／全国 66.1）

- 主として「知識」に関する問題の正答率は全校と比べて3.1ポイント上回っているのに対し、主として「活用」に関する問題は0.1ポイントしか上回らなかった。基本的な知識は身につけているが、知識を活かして考えたり、結びつけたりすることが課題であると考えられる。

主として「知識」に関する問題（本校 71.0／泉佐野市 65／大阪府 67／全国 67.9）

主として「活用」に関する問題（本校 65.0／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 64.9）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

理科「知識」	特 徴 が み ら れ た 設 問	
物理的領域 6（2）実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる。 (83.4/77.2) 6（2）オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる。 (62.3/51.9)	生物的領域 5（1）神経の働きについての知識を身に付けている。 (68.6/54.9) 地学的領域 7（1）地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている。 (61.1/55.1)	

理科「活用」	特 徴 が み ら れ た 設 問	
化学的領域 4（3）化学変化を表わしたモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる。 (58.3/49.4) 8（3）探究の過程を振り返り、新たな疑問を持ち問題を見だし探究を深めようとしている。 アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる。 (42.3/48.1)	生物的領域 2（4）1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる。 (52.0/57.7)	

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
理科の勉強は大切だと思いますか。	63.1	70.6	◇	7.5
理科の授業の内容はよくわかりますか。	60.3	70.0	◇	9.7
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。	72.1	77.6	◇	5.5
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	50.0	55.7	◇	5.7
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。	27.8	22.2	◇	5.6
理科の授業で、自分の考えや考察を周りの人に説明したり発表したりしていますか。	30.1	41.4	○	11.3
理科の授業では、理科室で観察や実験を月一回以上行いましたか。	5.6	87.1	○	81.5
観察や実験を行うことは好きですか。	76.1	82.1	◇	6.0
理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。	37.5	58.5	○	11.0
理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか。	42.7	72.3	○	29.6
理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。	43.8	59.0	◇	6.2

○理科の授業で、実験や観察の回数が少ない傾向にある。

○実験や観察が少ないことから、実験に関係する項目が全国平均に比べて低い。実験を行わない場合でも、自然事象に関して班別に考え、発表する機会を取り入れながら学習を進めていくことが必要である。

○理科の授業で学ぶ内容が、身近なところで役立っているという実感がないため、理科を学ぶ意義や大切さがわかっていない傾向にあると考えられる。今習っている内容が、日常生活のどのようなところに使われているかを気付かせながら授業を進めることが必要である。

平成30年度全国学力・学習状況調査の分析（生徒質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きい特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
【自分自身の様子】	①自分によいところがあると感じる生徒の割合が全国平均を下回っている。 ②地域社会などでボランティア活動に参加したことがある生徒の割合が全国平均を上回っている。	①自分には、よいところがあると思いますか $\lt 73.3 / 78.8 \gt$ ②地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか $\lt 83.0 / 73.6 \gt$
【家庭生活の様子】	①週末に学習塾など学校や家以外の場所で勉強している生徒の割合が全国平均を大きく上回っている。 ②家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事を話す生徒の割合が全国平均を下回っている。	①週末に何をして過ごすことが多いですか 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している $\lt 37.5 / 23.4 \gt$ ②家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事を話しますか $\lt 69.9 / 76.0 \gt$
【家庭学習の様子】	①家で、学校の授業の予習・復習をしている生徒の割合は全国平均を下回っている。 ②家で予習や復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している生徒の割合は全国平均を下回っている。	①家で、学校の授業の予習・復習をしていますか $\lt 46.6 / 55.2 \gt$ ②家で予習や復習やテスト勉強などの自学自習において教科書を使いながら学習していますか（家庭学習） $\lt 65.9 / 71.3 \gt$
【学校での学習の様子】	①1.2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う生徒が全国平均を下回っている。 ②生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う生徒が全国平均を下回っている。	①1.2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか $\lt 48.3 / 53.8 \gt$ ②生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか $\lt 64.8 / 76.3 \gt$

本 校 の 取 組

本校では「自ら学び、考え、主体的に行動できる生徒」「科学的なものの見方、考え方をもちて創意工夫する生徒」「友愛を重んじ、人権を尊ぶ生徒」「勤労を愛し、責任感の強い生徒」の4つを教育目標（めざす生徒の姿）として設定し、日々の教育活動を推進しています。本年度は「授業づくり」「集団づくり」「環境づくり」の3点を重点課題として取組を進めているところです。

1. 授業づくり

「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を推進するとともに、評価について研修を深めてまいります。本年度の全国学力学習状況調査の生徒質問紙からは、「授業で、自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」

（本校 48.3／国 53.8）、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ている」（本校 64.8／国 76.3）、「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしている」（本校 30.1／国 41.4）等の設問に於いて、肯定的な回答が全国平均を下回っており、獲得した知識や技能を基盤として、考えを深めたり、広げたりする活動に課題があることがわかりました。

そこで、本校では「授業プラス1」を研究テーマとして掲げ、授業研究を進めています。通常の授業の中に「プチしかけ（プラス1）」を入れることを意識し、生徒が主体的に意見を述べ合う授業展開を工夫していこうというねらいです。また、授業をひとつの物語として捉え、学習のめあて（指導目標）を明確に示すとともに、指導方法の工夫によりクライマックスのある授業展開を心がけ、振り返り活動（学習評価）につなげていくことも意識しています。そのため、年間3回の研究授業を計画し、次期学習指導要領の方向性を見据えながら、「わかる授業」の実現をめざして教員個々の授業力の更なる向上を図っています。

本年度の生徒質問紙からは、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」（本校 47.7／国 52.1）、「家で学校の宿題をしている」（本校 88.1／国 91.6）、「家で学校の予習・復習をしている」（本校 46.6／国 55.2）の項目でも全国平均を下回っていることがわかりました。普段（月曜日から金曜日）の日の授業時間以外の学習時間（学習塾や家庭教師を含む）についても、2時間以上勉強している人の割合が全国よりも高い数値を示している一方（本校 42.0／国 36.4）、全く勉強していない、学習時間が0分の生徒の割合が10.2%と大変高くなっています。このことから宿題の出し方等、家庭学習のあり方についても対策を講じてまいります。また、道徳の教科化に向け、外部講師を招聘した評価研修も予定しています。

2. 集団づくり

生徒会活動や委員会活動等を通じて生徒の自治の力を育みながら、「互いの違いを認め合い高め合う質の高い生徒集団」の形成を図ります。生徒会執行部だけでなく、すべての委員会を巻き込んだのあいさつ運動を展開したり、服装の乱れやスマホによるいじめ等の学校の課題について寸劇にする等の工夫をしながら全校集会で訴えたり、異学年による連合形式の体育大会で生徒自身が練習や応援を主導したりする取組を通じて、生徒の自治意識を高め、集団の質を高めていくことが学力向上にも密接につながっていくと考えています。

生徒質問紙の「地域社会などでボランティア活動に参加したことがあるか」という設問に対して、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っており（本校 83.0／国 73.6）、本校の生徒が地域社会で温かく支えられながら成長していることがよくわかります。こうした経験は将来進路を切り開いていくための人間力の形成に深く関わっています。そこで、本校では地域と連携した取組を今後も推進してまいります。

3. 環境づくり

安心、安全で落ち着いた学習環境のあり方について、職員、生徒ともに一層の意識の向上を図り、環境整備を推進します。具体には校区小学校とも連携しながら、教室環境の整備や授業規律の統一化に取り組んでいきます。そのことで生徒が集中して学習に取り組める環境を整えてまいります。

◎これまでの取組

- (1) 班長制度，行事ごとに活動するプログラム委員，体育大会の連合形式，合唱コンクールなどを通して，生徒が主体的に動く機会を設ける。
- (2) 実生活と教科の学習を関連させることを意識していく。
- (3) 授業の振り返りや，次回の授業の予習をできるよう宿題を出し，自宅学習の習慣化をめざす。
- (4) Eメールや紙媒体を用い，授業参観，学校行事の告知を積極的に行い，保護者等の参観を促す。
- (5) 環境浄化活動，かかしの会，地域のスポーツ行事など地域の方と一緒に活動する機会を引き続き設けていく。
- (6) 総合的な学習の時間を通して，自分の感想を書いたり，発表したりする機会を設け，生徒の主体性を増す指導を行う。
- (7) 道徳の時間では，自分の考えを深めたり，学級やグループで話し合ったりできるよう，班で活動できる座席，コの字型に配置した座席などで授業を行うなどして，交流～発表を活性化する。
- (8) 授業内で生徒どうし意見交換し，発表する機会を増やし，自らの考えを伝える苦手意識を減らす。

◎これからの取組

- ・ 学年ごとに研究授業を開き，今年度の学力向上の研究テーマである「授業プラス１～授業にプチしかけを～」をもとに主体的，対話的で深い学びの観点から協議をする。
- ・ 授業保育づくりチームのテーマ「安心して活動できる仲間づくり～聴き上手、伝え上手～」をうけて授業保育づくりの授業アンケートを活用する。
- ・ 授業規律マニュアルを作成して教室の環境づくりを統一する。また，小中連携も視野にいて可能な範囲で授業規律を統一させる。
- ・ 支援教育の観点から教室の環境もユニバーサルデザインを取り入れていく。
- ・ 隠れた教育を教職員に意識づけて教室の環境をこまめにチェックする。
- ・ 「めあて，ふりかえり」を全授業で完全実施するために各教職員にめあて，ふりかえりカードを配布する。
- ・ 学力向上通信を作成して授業改善の情報を発信する。
- ・ 家庭学習を強化するために学年で統一した家庭学習を支援した対策を考える。
- ・ 授業観察週間を設定して教職員間でそれぞれの授業の共有をする。
- ・ 放課後に「まなびんぐ学習」を行い学力の向上に取り組む。
- ・ 長期休業中に補充学習を行い基礎学力の向上を図る。